

のうせい 佐用

農業委員会だより

第 54 号

令和元年 11 月 5 日発行

佐用町農業委員会

TEL.82-0667 (農林振興課)

FAX.82-0017

ちくさ刊



真盛営農組合では、丹波黒の枝豆の最盛期を迎えました。

寒暖の差が大きい佐用の風土が、今年も粒を大きく、ふっくら実らせました。

枝豆は新鮮な状態で味わってもらえるよう、枝付きやもぎ取りなどの収穫メニューも用意し、集落全体で作業に取り組んでいます。

主な記事から

- ☆ 生産者に訪問
光森正純さん . . . 2～3
- ☆ 農業委員会からのお知らせ . . . 4
- ☆ 編集後記 . . . 4



栽培状況を確認する光森さん

◎生産者に訪問

光森 正純 さん（南中山）

今月号は、原木でシイタケ栽培する光森正純さんをご紹介します。

Shiitake（英語）le shiitake（フ

ランス語）と表記されるように、世界的にも日本のシイタケは有名な食材です。干しシイタケは安価な中国産に市場を奪われた時期もありましたが、品質の良さで国産が見直されています。

大撫山の麓で

大撫山を北にいたたく南中山地区、認定農業者の光森正純さん（65才）を訪ねました。

光森さんは原木シイタケを6〜7千本、稲作を1・6畝、夫婦二人で栽培されています。光森さんがシイタケの栽培を本格的に始めたのは27才の頃。父親の山仕事やシイタケ栽培を引き継ぎました。

栽培へのこだわり

シイタケの栽培方法は、原木に植菌する原木栽培と菌床（オガクズ・木材チップ・ぬかなど固めたものに植菌したもの）を使う菌床栽培があります。



菌床栽培は栽培時に取り扱いやすいのが特徴です。ストレスなく育つシイタケは柔らかく、見た目も綺麗なことから、特に若い消費者に人気があります。

一方、光森さんは原木を使った栽培方法にこだわっています。硬い木の皮を破って出る原木シイタケは変形しやすいですが、それだけに歯ごたえがあります。「原木シイタケは香りも歯ごたえもよく、やっぱりおいしいね」と消費者にも好評です。

6〜7千本の原木

原木に適した木はコナラ、クヌギで、他にもアベカワ、サクラなども利用されます。木を切ることも大変な作業ですが、「最近はその持ち主がなかなかわからないことが多く難儀する。木が大きくなり過ぎた山が多く、チェーンソーを恐るおそれる扱うことが増えてきました。」と光森さんは話します。

シイタケ農家の1年

1年で最も多忙なのは4、5月。4月に植菌を始め、5月には水稻の苗箱作りや農地の耕作、草刈りと目が回るほど。光森さんは地域の田を守るため、南中山地区の耕作されなくなった田を預かっています。

植菌は原木に数十万の穴をあけそこに種駒を入れます。種駒の菌には一般的な冬菌と光森さんが使用されている夏菌があり、業者用の夏菌をメーカーから20万個取り寄せて使います。おがくずを固めて作られた夏菌は駒の径が大きく(約13ミ)1個当たりの菌量も多いのが特徴です。栽培はハウスで行い、ハウス内の温度は30℃以下、浸水温度は18℃以下と細かく管理されます。年8回シイタケを収穫しています。

出終わった原木は休息させるために30日程度山に返します。夏なら、約80本、冬は約150本ずつ毎日繰り返し、使い古した原木は薪と

して利用します。

採取したシイタケは生シイタケとスライスした干しシイタケに分別、それぞれ袋詰めして出荷されます。出荷先はJAなどの直売所をメインに、月に1回神戸の元町にも出荷しています。

楽しみ

夏は釣り、冬は山の毘鹿、自然の恵みを満喫することが光森さんの楽しみのも1つです。会社勤めと違い、自分のこだわりを持って栽培されています。スケジュールも自分で立て、疲れたら休むといった自分のペースで栽培されています。決まった休暇はないものの、ホダギを水に浸けずシイタケの生育を遅らせれば長期休暇も可能とのこと。

佐用町内のシイタケ栽培農家もわずか5軒となりましたが、今後無理をせず続けていってほしいですね。



取材のようす



原木で栽培されたシイタケ

農業委員会からの お知らせ

☎Tel 82-0667
infomation

農地パトロールを実施しました

農業委員会では、8月20日に町内一斉の農地パトロールを実施しました。今回のパトロールでは、昨年度に許可をした農地転用の進捗状況と、遊休農地の発生状況を中心に町内の農地を確認しました。



農地パトロールの様子

パトロールでは、草が生い茂り、管理が不十分な農地が見受けられました。管理を怠ることにより、害虫や害獣のすみかとなったり、不法投棄されたりする恐れがありますので、草刈りなど適正な管理をお願いします。

農地についての疑問やお困りの際には、地域の農業委員、農地利用最適化推進委員までご相談ください。

全国農業新聞を購読しませんか

全国農業新聞は、農業委員会ネットワークが発行する週刊の農業専門誌です。農業者の幅広い情報を週刊で発信しています。

■様々な問題に、じっくり鋭く迫ります

週刊誌の特性を生かして、企画を重視しじっくりと解説をします。また、農政・時事・経営問題には鋭く斬り込み、一週間の農業・農政の動きを分かりやすくまとめます。

■充実した経営情報と流通の現場情報を伝えます

激変・変革の時代。専業・兼業を問わず農業経営にとって「情報」が

命です。「経営・技術・流通」で、経営に役立つ旬の情報をお届けします。

■地域を元気にする情報を提供します

地域別の中山間農業やブランド化などの活性化事例や、鳥獣対策について提供します。

■月4回金曜日発行
■月700円（税込）

申込みを検討される方は、地域の農業委員、農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局までお問合せください。



許可申請締切日

農地に関する許可申請の締め切りは、毎月末です。

12月委員会分	11月29日（金）
1月委員会分	12月27日（金）
2月委員会分	1月31日（金）

編集後記

喉元過ぎれば熱さを忘れる。だから人は生きていけるのだ。今年も早11月。もう忘れかけているが、今年も異常気象だった。農業者の減少や高齢化は極めて深刻な状況にあることは周知のとおりだ。「佐用にしかない」独自の歴史や景観は、どの地域にも眠っている。これを地域の魅力として自覚することは、住民の「誇り」になる。誇りは日々の活動の原動力となり、新たに人を引き寄せる力にもなる。農業、農村の魅力を再発見するため、国、県、町の施策の活用も一つの足がかりとなる。

農業委員や農地利用最適化推進委員は、地域の農家と身近に接し、農地利用を進めま

編集委員 森口 治

編集委員会

委員長	藤本 浩
副委員長	山本 孝行
委員	井上 建治
委員	小原 孝文
委員	森口 治
委員	福原 正幸
委員	鎌本 浩三
委員	金谷 隆志